

BOYS & GIRLS Vol.93

宇都宮清陵高校 女子バスケットボール部

Text・Photograph/ 築嶋正真



清陵高校は2015年度で創立30周年という節目の年を迎え、創立当初から活動する女子バスケットボール部も創部30年を迎えた。優勝経験こそないが、県立高校でありながら常に、上位ベスト8以上の成績を残してきた。

夏の大会で引退した3年生選手は8人。そのほかマネージャー2人が在籍し、すべての大会でベスト8をキープするという素晴らしい成績を残した。残された選手は2年生が1人、1年生が5人の合計6人。しかし1年生の選手が半月板を負傷したことで長期の戦線離脱が確定し、交代選手のいない5人で戦わなければならないという厳しい状況となった。

紅白戦やフォーメーションの練習などは、進路が決まった3年生に来てもらい、なんとか練習を行っている。就任5年目の福田京子監督は、「新チームは交代選手がいない厳しい状況の上、全員背が低いので、とにかくデフエンスを頑張らないといけません。引退した3年生たちも背は低かったのですが、とにかく走るチームだったので、最終的にはデフエンスを頑張ることで上位に入れました」と話す。1年生の1人は、中学生の時は吹奏楽部に所属していたが、高校でバスケット部に入部。周りの選手に後れを取らないよう毎日必死で練習に励んでいる。これも、過去の実績に関係なく、個々が伸びる方法を選んで指導するポリシーを持つ、福田監督の下だからこそ、頑張れるのかもしれない。

唯一の2年生、高橋あすかキャプテンは、小学生の時にミニバスを始め、中学になった後もバスケットを続けた。「先輩たちの迫力があってすごい」と憧れて清陵高校に入学し、今もプレーを続ける。「人数が少なく厳しいですが、声を掛け合ってお互いをカバーしあい、一戦一戦、勝ち進んでいきます」と意欲的だ。渡辺あみ選手（1年生）は、中学時代に、清陵高校と何度も練習試合をしたという。「一生懸命頑張るチームで、真剣にバスケットをプレーする先輩たちの

目標は、ベスト8越え!

姿が格好よくて清陵に入りました。人数が少ないからこそ、個々がやることをきっちりやって、チームは一つになっています」と笑顔で話す。

部員たちには、「大学・社会人とずっとバスケットを続けてほしい」と福田監督は言うが、実際には大学まで続ける選手がほとんどいないのが現状である。そんなこともあり、「成年女子としてプレーしていた経験上、選手たちも続けてほしいんですけどね」と寂しい思いも口にした。それでも「県立高校で頑張りたいと思って入部した選手たちに、上位の成績を残させてあげたい」と力を込める。

目の前にあるのは新チーム初の公式戦、1月の新人戦だ。5人で乗り切れるかどうかのポイントになっているが、1年生5人も点数差で負けて悔しい経験をしており、その時の悔しさと実力を武器に試合に臨む。目標はベスト8を越えること。

「学校が清原地区にあるので、鬼怒川を越えるというところで、周りからは、遠い」と言われていますが、それでも清陵に行きたいと言ってもらえる学校にしようと、選手と一緒に頑張っています」と福田監督。今日も、ベスト8越えを目指し、寒さが厳しい冬の体育館に元気の掛け声を響かせ練習に励んでいる。

